

語彙の習得活動をつくる 5 ステップ

STEP1 導入

語彙も文法もコンテキスト（文脈・意味）のなかで教えることが大切である。絵、写真、レリア、ジェスチャーなどを使ってコンテキストを作ることが教師の仕事の1つである。【活動例1】

【活動例1：導入】

イラストを見せながら、趣味に関連する新出語彙を導入する。音声と文字の両方を使って語彙を提示する。

STEP2 インプット活動

耳や目からのインプットをたくさん与える。言わせたり書かせたりしてアウトプットさせる必要はない。【活動例2】

【活動例2：趣味当て遊び】

教師が問題を読みあげ、生徒は a～d の記号で答える。

1. 山田さんは走るのが好きです。趣味は何だと思えますか。
 2. 金井さんはコンサートによく行きます。趣味は何だと思えますか。
- a. 絵画 b. グルメ c. ジョギング d. 音楽鑑賞

STEP3 ことばで遊ぶ活動

ことばを言わせたり、フラッシュカードから選ばせたりするなどさまざまな活動を考える。答えは1つではなく、与えられたことばを学習者自身が分析し、どれがほかのものと違うかを考えるような活動にする。そうすることで、形式と意味の関係に対する理解がより深まり、語彙の学習が進み、高度の思考能力も養成することができる。【活動例3】

【活動例3：仲間はずれ探し】

教師は「仲間はずれのことばはどれですか。なぜですか」と聞き、生徒に言わせるかカードを取らせる。

1. サッカー、野球、バレーボール、ジョギング、バスケットボール
2. 書道、茶道、華道、柔道、香道

生徒に、自分に関係する語彙をもう1つ足すようにさせると、より高度な思考力が身につく。

STEP4 アウトプット活動

形式と意味の関係に対する学習者の理解が深まってからはじめてアウトプットさせる。できるだけ現実に近いコミュニケーションの状況を作り、コミュニケーションすること自体に目的をもたせて練習させる。例えば、ペア活動として、学習者同士が自分の知識・経験をもとにやりとりし、自由に会話する形で練習させる。答えは1つではない練習をすることが重要である。【活動例4】

【活動例4：趣味のクラスの紹介】

あなたは町のカルチャー・スポーツセンターのアドバイザーです。次の人たちがアドバイスを求めています。

どのようなクラスを勧めますか。自由にアドバイスしてください。

例：手が器用です。→クラフトのクラスはどうですか。

1. 音楽が大好きです。
2. 字が上手になりたいです。
3. たくさんの人と友だちになりたいです。

STEP5 語彙の拡張活動＝文法導入活動

(＝文法表現の習得活動のSTEP1と位置づけることもできる)

話題を中心としながらも、より広い文脈で語彙を使う活動を考えます。その際には実生活に関連した状況を作り出します。段落レベル、談話レベルで活動を行います。活動ではできるだけ教師のコントロールを減らし、学習者が自主的に、自分のニーズを満たすような活動をデザインします。話すだけでなく、聞く、書く、読むなどのスキルも練習するような広範囲な活動にします。

文法表現の習得活動をつくる5ステップ

STEP1 導入(＝語彙の習得活動のSTEP5として位置づけることもできる)

導入した語彙に関連するトピックをコンテキストにして文法を導入する。現実の場面に近いコンテキストを作り、文法形式がどのような意味をもっているか、どのような言語機能を果たすかを学習者に理解させるようにする。【活動例5】

【活動例5：趣味を聞く】

導入した語彙のトピックである趣味について、会話でコンテキストを作り、形式(動詞の可能形)＝意味(何かができることを表わす「れる」「られる」)を導入。

山田：田中さんの趣味は何ですか。

田中：趣味ですか。そうですね。水泳かな。

山田：水泳ですか。どれくらい泳げますか。

田中：10キロくらい泳げますね。

1. カラオケ、上手に歌う、プロ並みに歌う
2. 料理、どんなものを作る、何でも作る。

STEP2 インプット活動

まずインプットをたくさん与え、形式（表現や品詞など）と意味の関係を理解させ、その関係に対する理解を強化し、形式を聞いたりしたときに無意識のうちに意味が思いつくように練習させる。教師は新しい文法表現を使うが、学習者はそれを聞いているだけ、あるいは見ているだけでよい。【活動例 6】

【活動例 6：できる人探し】

教師は 1～3 について「誰のことですか」と聞き、生徒は a～c の記号で答える。
生徒は可能形を聞いているだけ、あるいは見ているだけ。

1. ピザを一度に 10 枚食べられます。
 2. ヒットをたくさん打てます。
 3. 韓国語が話せます。
- a. イチロー b. 草薙剛 c. ギャル曽根

STEP3 アウトプット活動①（コンテキスト内でのメカニカル活動）

単に形式（表現や品詞など）を置きかえるのではなく、活動例 7 のように〈 〉内のコンテキストを考えながら、形式を変えるような活動が必要。意味に対する注意がなければ、効果的な言語習得は起こらない。どんなに単純な練習でも、意味を考えるようにすることが重要である。【活動例 7】

【活動例 7：何ができますか】

【 〇〇 〇〇】から選んで、適当な形に変えなさい。

例：〈車の修理が好きな本田さん〉

壊れた車を_____（なおす→なおせます）

1. 〈水泳が得意な田中さん〉 3000 メートル_____
2. 〈イタリア料理が得意な森山さん〉 パスタをいろいろ_____
3. 〈お菓子作りが好きな太田さん〉 ケーキを上手に _____

【歌う、作る、話す、泳ぐ、食べる】

STEP4 アウトプット活動②（ミーニングフル活動）

STEP 3 では、提示された表現から適切なものを選んで活用させる活動だが、次の段階である STEP 4 では、学習者に自分の知識や経験をもとに考えさせる活動にする。自然な発話として、学習者のレベルに応じて、アウトプットを調節する。【活動例 8】

【活動例 8：何ができる？】

次のような場所ではどんなことができますか、できることを言ってください。

例：マクドナルド→ハンバーガーが食べられる、
コーヒーが飲める

1. ディズニーランド (see Mickey Mouse, ……)
2. 図書館 (read books, ……)
3. 秋葉原 (go to AKB48's concerts, ……)

※ここでは、生徒が自分の知識、経験をもとにその場所でできることを考える必要がある。自然な発話として、「～たり、～たりできます」「水曜日は～できます」など、生徒のレベルに応じてアウトプットを調節することができる。

STEP5 アウトプット活動③ (コミュニケーション活動)

使う文法表現は限られていても、現実にもありそうな状況で練習する。この場合、教師に言われたことや教科書に書いてあることをくり返すのではなく、学習者はそれぞれ自分のニーズや能力を考慮して、創造的な自己表現をすることになる。

これは、現実のコミュニケーションに近いものである。【活動例 9】

【活動例 9：求む、手伝い人】

ペアを作ってください。1人は仕事をもった家庭の主婦です。来週ニューヨークに出張に行くことになったので、家のことを手伝ってくれる人を雇うことにしました。面接に来た人にどのようなことができるか、いろいろ質問してください (1～4)。相手の答えを聞いて、この人を雇うかどうか決めなさい。

もう1人は今仕事を探しています。ウェブサイトの求人案内を見て、面接に来ました。相手の1～4の質問に正直に答えてください。

1. 料理する。
2. 犬のめんどろをみる。
3. 子どもの遊び相手になる。
4. <あなたが考えた質問>

文法・表現の拡張活動 (シチュエーション活動/アウトプット活動)

活動は教師のコントロールを離れ、完全に学習者のコントロールのもとで行われます。学習者は、これまで習った文法項目や語彙を自由に使って活動します。実生活の状況の中での言語活動であり、応用力や柔軟性などが求められます。